

THE DAY



NEWS LETTER

2025 / 1 / 1 Noboru Morishige

YouTube 森繁昇チャンネル



友達、親戚、家族、兄弟姉妹、このレターを読んでくださる皆さん

2025 年元旦

皆さん、その後、元気になっておられるでしょうか？ 皆さんが元気になっておられることを心から願っています。

今年最初のレターです。希望のメッセージです。どうか忍耐して最後まで読んでくださいますよう、よろしくお願いします。

新しい年、新しい月、新しい今日、新しい今

その時までそうでしたが、西暦と呼ばれるイエス・キリストの誕生に基づいて計り始められた時と日と月と年！ この 2025 年の長い時の中で、創り主なる神の計画通り、自分という全ての人を、男か女か、いつこの世に送り出すのか、地球上のどこに送り出すのか、どの親を通してこの世に生まれさせるのか、どのような状況の中で、どのような状態を抱えてこの世に存在させるのか、人には理解も想像も全くできない神の力と計画により、自分という人はこの世に送り出されてくる。

仮に一人一人がどのような人であるとしても、造られた一人一人は、造り主にとって等しく大事で貴重な存在であることは間違いないと確信する。その確信は、全てのものを造られた神から人に与えられる真理です。そして、今、2025 年のこの時、自分という人が、この世に存在して、生きている。この世にいるのは、ほんのしばらくの間です。

まだ希望があります

人は、なんと遠くまで、真理である神から離れ

てきたことでしょうか。その真理なしに、またその真理である神を知らないままで、人は、どうして正しく生きることができるでしょうか？ 全てのこと正しく進むことがありえるでしょうか？ 「そんな真理というものを知って何になる！ その真理が今のこの世に何が出来る！ 何の助けになる！ そのようなことはアホらしい戯言（たわごと）に過ぎない！」

人は、何と遠くまで、真理である神から離れてきたことでしょうか。しかし、まだ、希望があります。

人は、希望を絶望の中で知る

「君は死んで行く！ 用意はできてるか？」（歌）

私は歌いたい 叫びたい。

他の人がなんと言っても叫びたい

永遠の命の希望を

たとい人が世界を全部自分のものとしても、何になろう！ もし永遠の命を損じたら。

しかし、創り主の愛をもらう者が、

死んでもまた生きるのなら、

誰がこの話を聞き捨てにできようか！

造り主に罪を赦される者が、

死んでも、また、生きるのなら、

誰が、この話を聞き捨てにできようか！

死ぬんだなんて嫌な気持ち、そんな話は聞きたかないよ。できるだけ考えないようにしているうちに、自分が死ぬっていうことを忘れてしまうのさ。目を覚ませ！

君は死んで行く。用意はできてるか？

若い者に歌っても、話しても、耳を傾けるものはほとんどいないかもしれない。しかし、若者たちにも歌いたいのです。今、聞いてほしいのです。人は誰も、死ぬのに若すぎることはないのです。

ぼやきではありません

時に乗って限りあるいのちを生きる人間にとって、神の真理であるゴスペルの良い知らせを知らないままで、新しい年を迎えて、何が、めでたいのでしょうか。自分の命の終わりに近づくことが、どうしてめでたいのでしょうか。たったひとつの望みである永遠の命の真理を知らないままで、新しい年を迎えて何がめでたいのでしょうか。

毎日がいくら楽しく面白くても、毎日がどんなにスムーズに進んでも、どれだけ充実していても、みんなとワイワイ楽しく過ごせても、経済的にも物質的にも何不自由なく、どこも痛くなく健やかに生きているとしても、時に乗って生きる者の命には限りがあるのです。その限りの中で、新しい年が来ても、何がめでたいのでしょうか。この世にいる自分の時間が短くなっただけではありませんか。

「時」(歌)

時を超えて旅する方は、全てを創られた方
時に乗って旅するものは、神に造られた
真の愛を受け取る その時
とこしえの旅が始まる
時を定められた方は わたしのすべて

野に咲く花も 空飛ぶ鳥も 神の御旨によりて
力の限りほめたたえる 創り主なる方を
真の愛を受け取る その時
とこしえの希望が生まれる
わたしとともに 命ある限り
ほめたたえる 神を

陽は昇り 陽は沈む 朝が来て また夜になる

春が来たら 夏になり 秋は去り もう冬
真の愛を受け取る その時
とこしえのいのちが溢れる
神の時に人は生まれ 神の時に世を去る

真の愛を受け取る その時
とこしえの旅が始まる
神の時に人は生まれ 神の時に世を去る

自然？ 創造？

生物は自然に発生し、偶然に進化を重ねて、ますます複雑なものに、そして、ますます発達して育ってきたと語る人たちは、空しく、悲しみと嘆きの涙の中で死を迎え、亡くなって行く。そのように寂しく去って行く。しかし、創造主なる神の真理であるゴスペル、すなわち神の良い知らせである天国での永遠の命の約束をいただいた者は、この世での悲しい死を迎えても、天国で再びよみがえり、朽ちない体を神からいただき、神と共に永遠に生きる神の約束を知って、平安と喜びのうちに、天のふるさとに帰るのです。まさに、神の恵み、Amazing Grace です！そして、それは現実です。

創世記1章1節「初めに神は天と地を創造した。」その人は、この言葉が真実であることを、神の愛と恵みによって確信させてもらったのです。

「陽が昇るまでに」(歌)

春の雨に萌出た 若草のように
春の光の中の 若枝のように育つ
夏の日照も ものともせず
大地に深く根を下ろす
秋の夕暮れは 黄金色に 神の栄光を照らす
冬空さえも駆け巡る勢いを見せたが
朝もやは消えて行くよ 陽が昇るまでに

あなたの指のわざである 天を見上げる時
人とは何者なのでしょう
あなたがこれを顧みられるとは

昼は昼へと話を伝え 夜は夜へ語りかける
砕かれた心に 降り注ぐ風のように
その呼び声は全地に響き渡り
その言葉は地の果てまで届いてゆく
悲しみが喜びに 憂いが慰めに変わる

君はどこへ駆けて行こうとするのか 友よ
全てを削られた方の愛を知らないままで
朝もやは消えて行くよ 陽が昇るまでに

新約聖書・新しい約束である神の言葉

いつか以前にも書きましたが、人と人のとの間でも、約束すると、その約束（言葉）を信頼するということが、人の心に生まれます。約束はまだ先のことで、まだ見ていないことに関しての事柄です。その約束を信頼するかどうかは、誰がその人と約束したかということが要因となります。親子でも、兄弟でも、友達とでも、また仕事や商売の相手先との間でも、その相手がどんな人か知っていれば、その信頼度は変わってきます。

いつもきっちり約束を守る相手なら、その人を知っているのです、その約束を信じているでしょう。しかし、約束通りしてくれない人であれば、新しい約束も信じれないかもしれません、たとえ信じたくてもです。このことから、誰がその人と約束したかということがやはり信頼するいちばんの要因です。そして、約束をした相手を知っているかどうかということです。

新しい約束である神イエスの言葉です

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

（ヨハネによる福音書（良い知らせ）3章16節）

以前も書きましたが、この言葉の私なりの説明です。

天と地の造り主である父なる神は、ご自分のひ

とり子であるイエスに、神に対する私たちの罪の罰を代わりに受けさせ、十字架の上でイエスを罰しました。そのことは、私たちが罪人であるにもかかわらず、私たちがまだ神にとって大事で大切であることを、また、私たちが愛しておられることを、神が私たちに分からせる方法でした。そのために、父は、多大な悲しみを持って、自分のひとり子が十字架の上で、殺されるのを耐えて見ていなければならなかったのです。

そのことは、人の罪が赦される唯一の方法であると同時に、私たちに對する父なる神の愛を、人間によくわかるようにする神の方法だったので。神は、それほど、私たち罪人を愛してくださいとおられるのです。それは、神の子イエスが私たちの罪の罰を代わりに受けてくださった愛を感謝して心に受け取る人が、全ての罪を赦され、この世での人生が終わったあとで、天国でよみがえり、朽ちないからだをもらい、神と一緒に天国で永遠に生きるためなのです。

これが、イエス・キリストから私たちに与えられた新しい約束です。

誰が？

それでは、誰が、そのような約束を信じることができるでしょうか？ それは、その約束を誰がしてくださったかを知っている人です。その約束をした方が誰か知らないなら、その約束を信じることはできません。

しかし、イエスは言われました。

「捜しなさい。そうすれば見つかります。」（わたしを知りたがってください。そうすれば、わたし自身をあなたにあらわします）

（マタイによる福音書7章7節）

神であるイエスは人となって、この世に來られた

イエスは、人として、死ぬということがどれほど恐ろしく耐え難いものであるかを味わいました。

イエスは自分がどのような死に方をするか、い

つ死ぬか（殺されるか）知っていました。その苦しみは人が味わう死の恐怖の極限だったのです。十字架にかけられ、ののしられ、精神的にも、情緒、感情も、全ての面で踏みじられ、肉体の痛みの極みを経験し、窒息しながら乾いて死んでいくのです。

イエスは、自分が世の罪を赦すためにこの世に来たことを知っていました。それが父の御心だったのです。イエスは十字架に架けられるしばらく前に、父にこうお願いしました。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。（十字架の上で命を捨てなくて済むのでしたら、そうさせてください）」

イエスは私たちと同じ人（人の子）でした。ですから、私たちが死を苦しむように、また恐れるように、そのしばらく後に起ろうとすることを避けたかったのです。しかし、それは、父の御心ではありませんでした。なぜなら、神の前に正しい人が、この世に誰一人おらず、全てのものが滅びに向かっているからです。罪人を救う道は、罪のない神の子イエスが人として、死という罰を受けなければならなかったからです。

イエスはその後で、父に、こう言いました。「しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。」と。

このメッセージが、聖書のゴスペルです。このメッセージを、皆さんはどう思われますか？

自分を任せる

イエスは、自分が死んで、三日後に生き返ることを知っていました。そして、自分のいのちを父に任せたのです。それは、人が、イエスの約束に自分を任せるのに似ていると思います。神の恵みによって、人が「自分自身を、また、自分のいのちを、永遠のいのちの約束をくださったイエスに任せる」それが、イエスを信じるということと私は確信しています。

死に勝てる

今回書いた、神のそのような愛を人は理解できないかもしれませんが、しかし、「初めに神は天と地を創造した。」（創世記1章1節）、その言葉が本当なら知りたいと心を開く時、神は、聖書に書かれている神の愛が、また神が約束した天国での永遠の命が現実であることを、その人の心に直接教えてくださるのです。その時まで、聖書に書かれてあることは、ただの「おとぎ話」としか考えられないのです。もう一度、「捜しなさい。そうすれば見つかります。」

このことは、どうしても良い話ではありません。この世での人生の終わりに来る「死との戦い」に勝てないままで、死んで行ってはいけません。

Noboru Morishige

Information

- 神戸ハーバーランドのK-waveでのライブのビデオがホームページとFacebookに掲載しています。
- 森繁昇のすべての歌をホームページで聴くことができます。QRコードからアクセスしてみてください。
- イエス様の御心なら春は、4月上旬から5月下旬。夏は7月下旬から9月下旬、秋は11月上旬から12月20日ご3まで、来日する予定です。コンサートや伝道集会に森繁昇を招きたいと思われる方は、メールでご連絡ください。

ザ・デイ / 森繁 昇

〒744-0019 山口県下松市桜町2丁目17-24
FAX▶0833-91-6492
E-mail▶thewindisblowing@hotmail.com
振替口座▶01330-4-93687 ザ・デイ

HP / thedaywill.com

Noboru Morishige
P.O.BOX 1666
KEAAU, HAWAII 96749 U.S.A
TEL ▶808-966-9252

